

セキ ギョウコウ

氏 名 石 暁紅
学 位 博 士 (経済学)
学 位 記 番 号 新大院博 (経) 第 3 1 号
学 位 授 与 の 日 付 平成 1 8 年 3 月 2 3 日
学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 4 条第 1 項該当
博 士 論 文 名

中国における農民出稼ぎ労働に関する実証研究
——私営企業と外資企業に就業する「農民工」の就業実態を中心に——

論文審査委員 主 査 教授 菅 原 陽 心
副 査 教授 小 澤 健 二
副 査 教授 佐 藤 芳 行

博士論文の要旨

石暁紅の博士論文「中国における農民出稼ぎ労働に関する実証研究私営企業と外資企業に就業する「農民工」の就業実態を中心に——」は、今日中国の市場経済の進展に伴って発生した農村労働移動の問題を取り上げ、従来一様であるかのように論じられていた農村出稼ぎ労働者には「伝統的出稼ぎ労働」と「近代的出稼ぎ労働」の二類型があることを実証的に示したものである。

本論文の構成は以下のようになっている。

序章 ——研究課題と方法——

第 1 章 農民出稼ぎ労働の社会・経済背景と出稼ぎ労働者の構造的特徴

第 2 章 都市労働力市場の構造・変動と出稼ぎ労働者の就業

第 3 章 私営企業に就業する農村出稼ぎ労働者の意識と行動——C企業におけるアンケート調査結果から——

第 4 章 外資企業に就業する農村出稼ぎ労働者の意識と行動——S企業におけるアンケート調査結果から——

第 5 章 中国都市における特殊な階層——「農民工」——戸籍制度と社会保障制度からのアプローチ

終 章 ——「近代的出稼ぎ労働者」と近代的工業労働力の形成——

付 録 調査票

1 私営企業の農村出稼ぎ労働者の意識調査 (日本語)

- 2 私营企業の農村出稼ぎ労働者の意識調査（中国語）
- 3 外資企業の農村出稼ぎ労働者の意識調査（日本語）
- 4 外資企業の農村出稼ぎ労働者の意識調査（中国語）

参考文献

序章では、農村出稼ぎ労働者に関するこれまでの研究にあつては、出稼ぎ労働者の就業形態が多様化しつつあるにもかかわらず、一様にいわゆる3K労働への供給源としてのみ捉え分析しているものがほとんどであることを指摘した上で、都市のフォーマル部門への進出を果たした「近代的出稼ぎ労働者」層が現れ始めたことに着目し、「伝統的出稼ぎ労働者」と「近代的出稼ぎ労働者」の二類型を検出し、分析していくべき点が論じられる。

第1章では農村労働力移動の社会経済的背景について歴史的な考察を加えた上で、今日の出稼ぎ労働者の構造的特徴を分析し、「近代的出稼ぎ労働者」と類型化できる層が出現してきたことを論じる。この章では、出稼ぎ労働者の分析から、1)就業先が近代的部門であり、2)近代性意識が形成されつつあり、3)近代的工業労働力への成長過程に位置づけられる出稼ぎ労働者の層が出現しており、これを「近代的出稼ぎ労働者」と類型化できるとする。

第2章では、中国における労働力市場の形成・発展過程を検討した上で、今日の都市労働力市場の多重構造を分析する。そして、そのような都市労働力市場を踏まえ、出稼ぎ労働者の都市における就業形態を分析し、フォーマル部門、インフォーマル部門への就業という二形態が検出されるということ、また、出稼ぎ労働者が都市労働力市場に及ぼす影響が分析される。この章の結論として、出稼ぎ労働の就業制限などのような制度的制約がなくなれば出稼ぎ労働者の存在によって、都市における経済改革が加速するばかりか、都市と農村との二重構造の解消も進展するということが主張される。

第3章では、河北省石家荘市にある私营企業C社で論者が実際に行ったアンケート調査に基づき、農村出稼ぎ労働者の意識と行動を分析している。本調査結果から、出稼ぎの動機と就業ルート、工場労働に対する意識・行動、郷里との紐帯、将来への見込み、経営者から見た出稼ぎ労働者への評価、対応について分析を行っている。本章では、出稼ぎ動機については、単なる経済的動機だけではなく、自己啓発や都市への憧憬が強く見られること、就業ルートとしては人的ネットワークが大きく機能していること、工業労働に対する意識・行動では、「技術を学べる」という点がもっとも重視されている反面、定着率は高くないことが確認され、ここで調査した労働者は近代的工業労働力の形成過程と位置づけられるが、不確定な要素もある点が論じられている。

第4章では、山東省蓬萊市にある外資企業S社で論者が実際行ったアンケート調査に基づいた分析が示される。このアンケート調査は前年に行ったアンケートを若干修正したものである。C社調査と比較しつつ、分析結果を示すと、出稼ぎ労働者の年齢、性別、学歴はほぼ同様であるが、S社の方がやや高年齢、高学歴の傾向がある。これは、地域的な差、また、近年の「民工荒」と呼ばれる若年労働者不足の影響によるものと推測されている。就業実態については、たとえば賃金水準などはS社のほうがやや高い傾向はあるが、ほぼ同じであるという分析が示

されている。就業環境はS社の方がC社よりも高い水準にあることが示される。

第5章では、中国の政策的枠組みについての歴史的考察がまず行われ、次いで、社会保障制度の現状が分析される。最後に、近年の「民工荒」と呼ばれる若年労働者不足の発生と農村における余剰労働力が対比され、社会保障制度の充実が、都市と農村の二重構造の解消に寄与すると考えられる点が論じられる。

終章では、3章、4章での分析に基づきながら、「近代的出稼ぎ労働者」と近代的工業労働力の形成について論じられている。論者によれば、都市フォーマル部門に就業する出稼ぎ労働者は出稼ぎの動機、工業労働への意識などから、近代的工業労働力の形成過程に位置づけられるものである点が論じられる。しかし、定着率などの面からそのように事態が進行するかは不確定な要素があること、労働移動の制限の撤廃や社会保障の充実など、環境整備を整えることによってそうした不確定要因が軽減されることが論じられている。

以上のように、本論文は、農村労働力移動の社会的歴史的分析、および、都市労働力市場の発展過程、今日の構造を踏まえ、実際の調査に基づいて、農村出稼ぎ労働者の分析を行ったものである。本論文の特徴は、農村出稼ぎ労働を「伝統的出稼ぎ労働」と「近代的出稼ぎ労働」とに類型化し分析するという方法を提示し、「近代的出稼ぎ労働」という概念規定が妥当なものである点を実証的に論じている点にある。

審査結果の要旨

平成18年2月8日16時より16時30分まで、学位論文審査委員会は、経済学部第一合同研究室において、石暁紅が提出した博士論文について審査した。

審査の過程で、審査委員から、これまで一様に論じられていた農村出稼ぎ労働について典型的に論じたことは高い評価に値するという指摘があった。「近代的出稼ぎ労働」という概念はおそらく始めて提起されるものと思われるが、こうした類型化を試みるためには、多面的な考察が必要となる。本論文は、単に就業先という観点だけではなく、労働者の意識などに踏み込んで類型化している点がとりわけ高く評価された。それと同時に、いくつかの問題点も指摘された。第一に、論者は「近代的出稼ぎ労働」という概念を定義するさいに、いくつかのメルクマールを提示するが、なにを一番重視しているのかが必ずしも明確ではないという点である。第二に、実際の工場調査などかなり工夫しているが、二つの工場での調査から導き出される結論はかなり限定的なものではないかという点である。

石暁紅の論文は、こうした問題点を有しているものの、これは本論文の価値を損ねるものではなく、今後の研究課題としてあげるべきものであろうという点で委員の意見の一致を見た。

以上の審査を行い、本審査委員会は、本論文が中国の労働力移動に関して経済学の分野からのアプローチによって得られた成果であることに鑑み、博士（経済学）の授与が妥当であるという結論に達した。